

# 向社会的行動につながる道德性を育む道德授業の 在り方の研究

## — 「共感力」と「道德推論の力」の育成に焦点を当てて —

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 指導教員 森 有希  
南国市立香南中学校 教諭 中谷 憲二

### 【研究の概要】

本研究では、向社会的行動につながる道德性を養うための、共感力と道德推論の力の育成に焦点を当てた道德授業の在り方を明らかにすることを目的として、道德科の授業実践と検証を行った。その結果、役割演技や議論、当事者からのメッセージなどを取り入れた学習は生徒の想像性を向上させ、視点取得を促して、共感力を高めることに寄与すること、また、議論や話し合い活動は生徒自身が視点を広げながら論理的思考をすることを促し、道德推論の力を高めることに寄与することが推察された。そして、共感力と道德推論の力を高めながら相互作用が生起するよう、生徒の表面的で観念的な理解を深め、本質的で道德的価値に至らせるような発問や問い返しを授業者が行うことによって、自己省察がより促され、向社会的行動につながる道德性が養われると考えられた。

【キーワード】 向社会的行動 共感力 道德推論の力 道德性 問い返し

### 1. 問題の所在と目的

いじめの問題や暴力行為、不登校などに関して、「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省 2023）によると、その認知件数や発生件数の割合は年々増加傾向にあり、子供たちが生き方の問題に悩みを抱えていることが浮き彫りにされている。また、第3期高知県教育振興基本計画に示す高知県の生徒指導上の諸課題に関する指標を見ると、特に、小中学校の不登校児童生徒数は多く、いじめについても重大事態の発生件数も例年、全国平均よりも多くなっており、「徳」の領域の課題改善は高知県にとっても切迫した問題となっている。

中学生の実態を俯瞰すると、スマートフォンなどに代表される個人の利便性を追求した機器の普及や人と人との物理的な繋がりを分断させたコロナ禍などの影響からか、生徒は往々にして希薄な人間関係の中で生活をしている状況にある。上記の諸課題は、個人の課題であるとともに、個人が所属する集団としての課題の側面もあり、生徒一人ひとりが他者との良好な関係の中で自分のよりよい生き方を見つめることを通して改善されていくと考えられる。つまり、他者に対する思いやりの気持ちを一人ひとりが持ちながら、自ら向社会的行動を実践し、他者から向社会的行動が実践されるような対人関係の中で、生徒自身がよりよい方向に自己を省察していくことで課題は解消されることが考えられる。こうしたことから「徳」の領域の課題改善には向社会的行動を実現できる力を生徒が身に付けていくことが必要不可欠であると考えた。

そこで、本研究ではアイゼンバーグ（Eisenberg, N.）の向社会性理論に着目して向社会的行動につながる道德性を育む授業の構造を明らかにすることとした。

### 2. 研究の構想

#### （1）構想

アイゼンバーグはこの向社会的行動を「援助行動や、分与行動、他人を慰める行動といった他者に利益となるようなことを意図してなされる自発的な行動」と定義している。また、「共感力は向社会的行動を促す根本的要因」と向社会的行動の実現のためには共感が必要であると述べている。さらには、共感力を養うためには、視点取得の機会が重要であるとも述べている。

そこで、本研究1年目は視点取得の機会を設定して共感力を養う場面を授業に挿入して、向社会

的行動を実践しようとする意欲を高めるための授業実践を行う。また、2年目は向社会的行動の実践に向けての意欲をさらに高めるために、向社会的理論に加えて、「道徳的な判断に至る根拠を押し量り思考する道徳推論と共感との相互作用が向社会的行動の大きな規定因になる」とも結論づけたミラー (Miller)、ナイト (Knight) らの研究結果にも着目して、授業に共感力と道徳推論の力を養う場面を挿入して授業実践を行う。

## (2) 定義

本研究では、以下のように定義する。

- ・ 道徳性

人間としてよりよく生きようとする人格的特性

- ・ 向社会的行動

援助行動や分与行動、他者を慰める行動といった他者に利益となることを意図してなされる自発的な行動

- ・ 共感力

多次元共感性尺度因子5項目(被影響性・他者指向的反応・想像性・視点取得・自己指向的反応)のうち認知面の視点取得と想像性に着目し、それらの力を共感力とする。

- ・ 道徳推論

道徳的判断力に位置する道徳推論の力を、道徳に関する理解をもとにして、判断に至る根拠を押し量り思考する力とする。

## 3. 方法

### (1) 対象・時期・実践内容

A 中学校第2学年(令和4年度)、第3学年(令和5年度)生徒37名に対して道徳授業を行う。本稿では共感力と道徳推論の力を養うことと、それらの相互作用に焦点を当てた令和5年度の実践について述べる。令和5年度の実践では、授業の中に、共感力を養うための視点取得の機会と、道徳推論の力を養うために考え議論する機会を毎授業設定する。

共感については、他者視点を獲得することを容易にするために役割演技を行ったり、生徒の感情を揺さぶり教材の登場人物等に感情移入させるために音楽や映像教材を提示したり、保護者からのメッセージを提示したりした。

道徳推論の力については、主には、葛藤が生じる議論テーマを設定して2つの立場に分かれ、なぜその立場を選択したのかについて意思表示させた後に、相反する立場の生徒へ質問をしたり、疑問を投げかけたりする活動をさせたりするなどして、自他の考え方の違いに気づき思考を深めていくというスタイルの議論を設定した。また、授業の中に葛藤が生じる議論テーマを設定し難しい場合には、バズセッションの機会を多く設定したり、離席させて自由に意見共有をさせたりするなど、他者とともに考え議論する場を設定した。加えて、共感と道徳推論の相互作用を働かせ主題により深く迫るために問い返しの工夫を行った。

表1は、令和5年に実践した授業と授業に挿入した工夫の一覧であり、表2は実践の概要である。

表1 授業に取り入れた工夫

	実践した授業	取り入れた工夫
1 学期	①「たんぼ作業所」(勤労)	議論・役割演技・生徒に身近な事例・バズセッション
	②「背番号15が歩んだ道-黒田博樹-」(よりよく生きる喜び)	議論・音楽・バズセッション
	③「背筋をのばして」(家族愛、家庭生活の充実)	2段階の議論・音楽・バズセッション
	④「ぼくにもこんな「よいところ」がある」(向上心、個性の伸長)	リフレーミング活動・音楽・バズセッション
	⑤「早朝ドリブル」(節度、節制)	議論・役割演技・バズセッション・音楽
2 学期	⑥「スマホに夢中！」(節度、節制)	役割演技・バズセッション
	⑦「缶コーヒー」(遵法精神、公德心)	議論・役割演技・バズセッション
	⑧「合格通知」(友情、信頼)	議論・役割演技・バズセッション
	⑨⑩「好きな仕事か安定かなやんでいる」(勤労)(2時間扱い)	議論・役割演技・映像教材・保護者からのメッセージ・バズセッション
	⑪「しあわせ」(相互理解、寛容)	2段階の議論・音楽・バズセッション

表2 授業実践の概要

<p>教材名「好きな仕事か安定かなやんでいる」          主題名「将来の自分を見つめて」【勤労】          ねらい：職業選択について考え、働く人の気持ちに共感し、働くことについて多様な視点から議論することを通して、仕事の意義を捉え自分の将来を真剣に見つめていこうとする態度を育てる。</p>
<p>【1/2時間目】(◎中心発問、◆問い返し)          ○職場体験学習について振り返る。          ○教科書教材を読んで、職業選択の際に大切にしたいことを考える。          ○高校生が職業選択する姿を追った動画映像教材を視聴する。          ○職業選択に関する自身の考えや授業の感想を記述する。          ○次時で活用するアンケートに回答する。          (アンケート内容)「あなたは将来のなりたい仕事はどの程度ははっきりしていますか」</p>
<p>【2/2時間目】          ○前時に実施したアンケート結果を見る。          ○自分が将来仕事を選ぶ際に大切にすることを考える。          ○教科書の登場人物である「好きな仕事に就くべきだと勧める人物」と「安定している仕事に就くべきだと勧める人物」になり、立場を変えて役割演技を行う。          ○テーマについて議論する。          【テーマ】「好きな仕事」か「安定している仕事」か、どちらを選びたいか。          ○保護者が書いた「仕事に対する思いや考え」を読んで勤労者の考えに触れる。          ◎議論を通じて「仕事のやりがい」について考える。          ◆勤労者がなぜ仕事の辛さや大変さを乗り越えられるのかを考える。          ○自分が将来仕事を選ぶ際に大切にすることを再度考える。</p>

(2) 検証方法

以下の①～④の方法で検証を行うこととし、①～③については5件法で回答を求め、選択肢を1～5に点数化して集計を行う。なお、アンケート等は個人が特定されないようにするなど倫理的に配慮する。

①道徳アンケート

毎回の授業で生徒の自己評価として「想像性」、「視点取得」、「自己省察」の3観点のアンケートを行って、共感力(想像性・視点取得)と自己省察に関する生徒の意識を把握する。

表3 道徳アンケートの内容項目

	項目の内容	観点
1	話の中の出来事がもし自分に起きたらと想像しながら考えることができた。	想像
2	役割演技やグループ活動で、いろいろな立場に立って考えることができた。	視点取得
3	友だちの意見について、どうしてそのように考えているのかを分かろうとした。	
4	自分の考えと比べながら、友だちの考えを聞くことができた。	
5	自分とは異なる考え方に気がついた。	自己省察
6	自分の行動や考え方を見直すことができた。	
7	これからの生活にいかしたいと思うことがあった。	

②多次元共感性尺度(MES:Multidimensional Empathy Scale)調査(鈴木・木野2008)

令和5年5月と12月に調査を行って、共感力に対する影響を把握する。

表4 多次元共感性尺度

	項目の内容	観点
1	面白い物語や小説を読んだ際には、話の中の出来事がもしも自分に起きたらと想像する。	想像性
2	小説の中の出来事が、自分のことのように感じることはない。	
3	空想することが好きだ。	
4	自分に起こることについて、繰り返し、夢見たり想像したりする。	
5	感動的な映画を見た後は、その気分にならなくても浸ってしまう。	
6	自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているのかをわかろうとする。	視点取得
7	人と対立しても、相手の立場に立つ努力をする。	
8	人の話を聞くときは、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞く。	
9	常に人の立場に立って、相手を理解するようにしている。	
10	相手を批判するときは、相手の立場を考慮することができない。	

### ③対象別向社会的行動尺度調査（村上・西村・櫻井 2016）

令和5年5月と12月に調査を行って、向社会的行動に対する影響を把握する。

表5 対象別向社会的行動尺度

	項目の内容	観点
1	知らない人が重そうな荷物を持っているとき、手伝った。	知らない人に対する向社会的行動
2	列に並んでいるときに、見知らぬ人に順番をゆずった。	
3	知らない子が嫌なことをされていたときに、助けた。	
4	知らない人が道に迷っていたときに、道を教えた。	
5	電車やバスなどで知らない人に席をゆずった。	
6	公園などで会った知らない子を遊びに誘った。	
7	仲の良い友達が荷物をたくさん持っているとき、少し待った。	友だちに対する向社会的行動
8	体育祭で仲の良い友達が走っているときに、応援した。	
9	仲の良い友達がテストで良い点をとったときに、ほめた。	
10	仲の良い友達がケガや病気のととき、保健室まで連れて行った。	
11	仲の良い友達に、誕生日プレゼントをあげた。	
12	仲の良い友達が、勉強で分からないことがあったとき、教えた。	
13	家の人が家事をしているとき、家事を手伝った。	家族に対する向社会的行動
14	家族の人が持っている重たい荷物を少し持った。	
15	家族に飲み物（コーヒーやお茶など）を入れた。	
16	家族の人が大変そうなどとき、代わりにお使いに行った。	
17	家族の人が疲れているとき、肩もみ（肩たたき）をした。	
18	家の人のために、お風呂をわかした。	

### ④学習の振り返り

毎回の授業の振り返りの記述から共感や道徳推論、向社会的行動に関する生徒の意識を把握する。

表6 道徳アンケートの結果

#### 4. 結果

##### （1）道徳アンケート

表6は道徳アンケートの結果である。各観点の平均を見ると「自分とは異なる考え方に気がついた」（視点取得）の項目が最も高い結果となった。

「想像性」と「視点取得」の項目に着目すると、実践第9、10回目が最も得点が高くなった。一方、「自己省察」の項目に着目すると、共感力を高めながら生徒主体の体験的な活動を行った実践第4回目が最も得点が高くなった。

##### （2）多次元共感性尺度

「共感性」の因子である「想像性」、「視点取得」についてその回答結果を得点化（5～1点）して対応のあるt検定により事前・事後の平均値の差を検定した。その結果「想像性」の因子が  $t(29) = 2.217$ 、 $p = .035$ 、 $r = .38$  となり、事前（17.53）に比べて事後（18.87）の平均値の方が

	項目1 （想像）	項目2 （視点取得）	項目3 （視点取得）	項目4 （視点取得）	項目5 （視点取得）	項目6 （向社会的性）	項目7 （向社会的性）	各回ごとの各役員の平均
実践第1回目	4.71	4.77	4.74	4.81	4.87	4.68	4.84	<b>4.77</b>
実践第2回目	4.84	4.77	4.81	4.84	4.94	4.81	4.84	<b>4.83</b>
実践第3回目	4.83	4.83	4.79	4.79	4.86	4.76	4.83	<b>4.81</b>
実践第4回目	4.83	4.83	4.87	4.83	4.93	4.97	4.93	<b>4.89</b>
実践第5回目	4.86	4.89	4.86	4.86	4.89	4.89	4.89	<b>4.88</b>
実践第6回目	4.90	4.87	4.81	4.84	4.81	4.90	4.90	<b>4.86</b>
実践第7回目	4.83	4.90	4.86	4.90	4.90	4.93	4.90	<b>4.89</b>
実践第8回目	4.83	4.93	4.93	4.97	4.90	4.90	4.86	<b>4.90</b>
実践第9、10回目	5.00	5.00	4.95	4.95	5.00	4.76	4.81	<b>4.93</b>
実践第11回目	4.84	4.90	4.84	4.87	4.90	4.90	4.90	<b>4.88</b>
各観点平均	<b>4.85</b>	<b>4.87</b>	<b>4.85</b>	<b>4.87</b>	<b>4.90</b>	<b>4.85</b>	<b>4.87</b>	<b>4.86</b>

有意に高くなっていた。「視点取得」については、平均値の伸びは見られたものの、有意差は生じなかった。

表7 授業実践による想像性への影響 (n=30)

事前 (令和5年5月)		事後 (令和5年12月)		t 値
Mean	SD	Mean	SD	
17.53	4.75	18.87	3.70	2.22 *

\* $p < .05$

### (3) 対象別向社会的行動尺度

「向社会的行動」の3因子についてその回答結果を得点化(5~1点)して対応のあるt検定により事前・事後の平均値の差を検定した。その結果「知らない人に対する向社会的行動」の因子が  $t(29) = 2.866$ 、 $p = .008$ 、 $r = .47$  となり、事前(13.13)に比べて事後(16.40)の平均値の方が有意に高くなっていた。その他の2因子については、平均値の伸びは見られたものの、有意な差は生じなかった。

表8 授業実践による「知らない人に対する向社会的行動」への影響 (n=30)

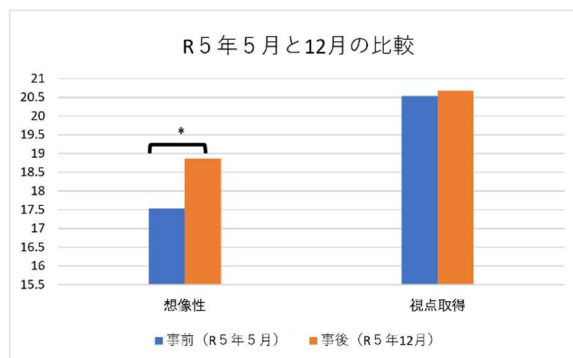


図1 授業実践による共感性への影響 (n=30)

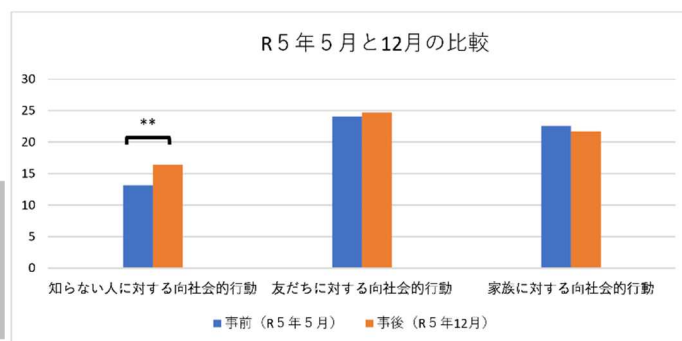


図2 授業実践による向社会的行動への影響 (n=30)

### (4) 学習の振り返り

代表的な振り返りの記述を以下に挙げる。

- ・将来、どのような仕事に就くべきなのか、就きたいのかなどを改めて考えることが出来て良かったです。私は自分が「楽しい」と思える仕事に就くことで、多少仕事が大変だったとしてもやりがいを感じる事が出来ると思うので、そのような仕事に就きたいです。(実践第9、10回目)
  - ・とても難しい内容だったけれど、他の人の考えを聞いて共感できる場所がありました。最後には、みんながこのクラスで良かったなと思えるクラスを作っていきたい。(実践第11回目)
- 以上のように、授業を通して自分の視点を広げながら自分の生き方を見つめ直して、向社会的行動を実践しようと意欲を高めるふりかえりが散見された。

## 5. 考察

### (1) 道徳アンケート

表6を見ると、「想像性」と「視点取得」は実践第9、10回目が最も得点が高くなった。これは、以下のことが要因であると考えられる。

- ・2時間扱いで授業を行うこととしたため、充実した活動や提示教材を挿入することができた。
- ・職場体験学習を想起させることによって、職場体験学習の際に職場の方々の勤務観に触れたことを思い出しながら勤務について考えることができた。
- ・高校生が出演する映像資料によって、職業選択や勤務についてより実感を伴って考えることができた。
- ・役割演技を行うことによって、職業選択に関わる二つの立場を想像し、自分事として職業選択

を考えることができた。

- ・保護者の仕事に対する思いを知ることによって職業選択や勤労に具体的なイメージを持つことができた。
- ・議論のテーマについて自分の立場を明確にし、その選択の理由を考えさせた。
- ・対立する立場の意見を聞いて、その考え方についても思いを巡らせることができた。
- ・質問や意見交換を通して、あらためて自分の立場選択の理由を考え直し、多面的・多角的に勤労の意義を考えることができた。

以上のとおり、他者視点を獲得するために効果がある手法を授業に挿入したことによって「想像性」と「視点取得」の項目が高まったと推察される。視点取得の高まりによって共感力の向上が期待されることから、役割演技に代表される視点取得を促す活動は向社会的行動を実践しようとする意欲を養うことに寄与すると考えられる。

また「自己省察」については実践第4回目が最も得点が高くなった。この実践では音楽を活用しながら、他者に自分の短所を長所に変換してもらうというリフレーミング活動を授業の中で行った。自己を見つめ直しながら、他者のことを共感的に見つめる活動によって「自己省察」の数値が向上したものと推察される。この自己省察をすることは道徳性の発達に良い影響をもたらすことが期待できる。このことから、情感を高めながら他者と交流する活動は、共感しながら自分を見つめ直すことに繋がり道徳性や向社会的行動を実践しようとする意欲を高めることが示唆される。

## （２）多次元共感性尺度

実践前後で有意な差が生じた「想像性」については、役割演技や保護者からのメッセージなどの授業に挿入した共感力に焦点を当てた活動や工夫によって、他者などの立場に自分を置き換える傾向を高めることができたものと考えられる。また、二つの立場に分かれて、他者の立場を考えながら議論をさせる活動も「想像性」を高めることに寄与したと推察される。

一方、視点取得については有意な差は生じなかった。これは、本実践では役割演技や議論など、他者と交流させる活動を優先した授業を実践したため、「なぜ他者がその感情状態になったのか」や「どうして相手はその立場を選択したのか」について、それを理性的に認知させて発表や記述で表現させる活動が少なくなってしまうことによるものと考えられる。

## （３）対象別向社会的行動尺度

「知らない人に対する向社会的行動」の項目に有意な差が生じた要因は、生徒の心身の健やかな成長によって向社会的な行動を実践しようとする意欲が高まったことと、本実践がその意欲の向上に少なからず寄与することができたためであると考えられる。生徒は授業を通じて自分視点から他者視点やより広い視点へと視点拡張が促され、他者への愛他的な思いが芽生えて向社会的な行動を実践しようとする意欲が高まった可能性がある。

一方、「友だちに対する向社会的行動」の項目に有意な差は生じなかった。これは、友達に対する援助行動をすでに当たり前に実践できる風土が生徒の中に醸成されていて、授業実践が意欲の向上に影響を与えることができなかつたためであると考えられる。

また、「家族に対する向社会的行動」の項目も有意な差が生じなかった。これは、Post を実施した時期が受験に備えた12月であり、この時期、家族よりも自身の受験対策を優先する傾向にあったと推察される。

## （４）学習の振り返り

学習の振り返りには、役割演技や議論などの授業に取り入れた活動を通して主題を自分事として考え、自分視点だけではなく他者視点や一般的な視点へと視点を拡大して、他者に対する思い

を高めながら自分の考え方を見つめ直して向社会的な行動を起こそうとする意欲を高めている様子が見られる。これは、役割演技や音楽、映像教材や保護者からのメッセージなどによって、想像性や視点取得が促され共感力が高まったこと、また、二つの立場に分かれた議論、バズセッション、他者との話し合いの中で、生徒自身が視点を広げながら論理的思考をすることを通して道徳推論の力が高まったことによって、共感力と道徳推論の力の相互作用が生まれて向社会的な行動を実践しようとする意欲が向上したものと推察できる。

## 6. まとめ

道徳アンケートの結果から、役割演技や議論、当事者からのメッセージなどの共感力を高める活動は想像性を向上させ、視点取得を促すことが分かる。また、共感力を高めながら生徒主体の体験的な活動を取り入れることは生徒の自己省察の向上に寄与することが分かる。

授業実践全体を俯瞰すると、多次元共感性尺度において「想像性」の項目が有意に高くなっていたり、対象別向社会的行動尺度において「知らない人に対する向社会的行動」の項目が有意に高くなっていたりすることから、共感力と道徳推論の力を養うことに焦点を当てた授業実践は、視点を広げて他者の立場に自分を置き換える傾向を高め、向社会的行動を実践しようとする意欲を高めることに寄与することが示唆される。

これらのことから、共感力と道徳推論の力の育成に力点を置いた授業は、生徒が情動や共感を高めて他者の考えや主題などに自我関与しながら感情移入的に思考することに寄与するとともに、根拠を持ちながら考えたり、推測したりしながら理性的、論理的に主題を考えることに寄与すると考えられる。そして、これらの視点を広げ、実感を伴わせながら思考する体験は、自分自身を見つめ直したり、認知的な枠組みを拡張したりすることに影響する。すなわち、共感力と道徳推論の力の高まりは自分の生き方を見つめ直すことに繋がると考えられ、結果として

それらの相互作用から道徳性が養われ、向社会的行動を引き起こそうとする意識が喚起されると推測される。

こうした考察から、共感力と道徳推論の力を育成する場面での有効な活動とその要素、そしてそれらの相互作用を働かせ、向社会的行動につながる道徳性を育むための道徳授業モデルをまとめたものが図3である。

なお、図3に示すとおり、道徳授業の中で道徳性を養い、向社会的行動を引き起こそうとする意欲を高めることに影響を与えたものとして、生徒がより深くより広い視野で多面的・多角的に自己省察をして自分自身の生き方を見つめ直すことを促していく授業者による「問い返し」がある。

「問い返し」とは、生徒の表面的で観念的な理解を、視点を広げながら本質的で道徳的価値に至らせる授業者からの問いかけのことである。本実践研究から、ここで有効に働くと考えられる「問い返し」を以下の4種類に分類し整理した。

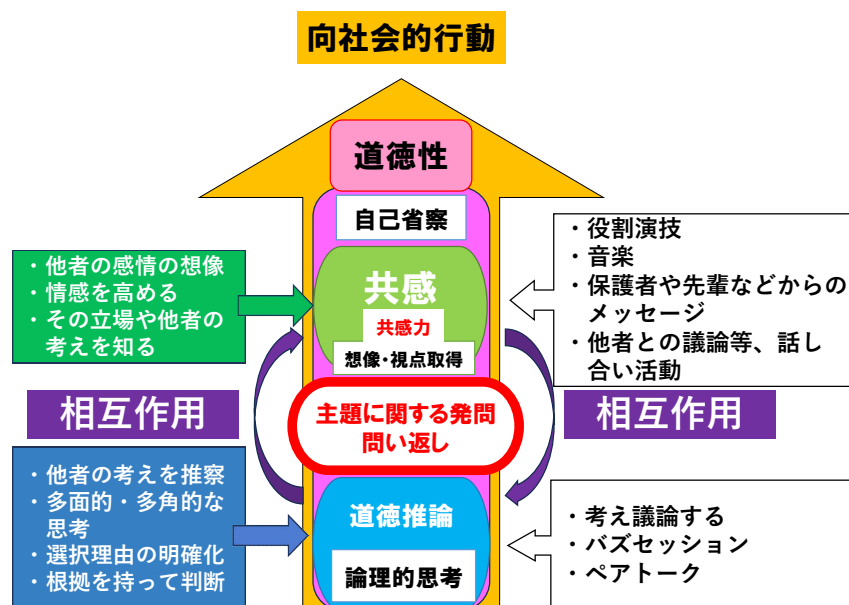


図3 向社会的行動につながる道徳性を育むための道徳授業モデル

一つ目は常時使用する問い返しである。確認、理由、明確化や要約、そして他者との比較は、自己内対話や他者との対話の結果や、他者の意見を聞いて考えたことや感じたことを、根拠を持たせながら理性的に認知させることを促していく。

二つ目は「自分との関わりで考える問い返し」である。教材や人物に自我関与させる問いかえしや、見通しを持たせるもの、思考や心の変容を自覚させる問い返しがこれに当てはまる。これまでの生徒自身の経験や考え方と、そのときの感じ方とを照らし合わせながら、生徒の考えを深めさせることに効果的である。

三つ目は「多面的・多角的に捉えさせる問い返し」である。自分視点だけではなく、他者視点や集団的な視点で捉えさせる問い返しや、議論の中での立場の同異点を問う問い返し、「きまりをたくさん作れば安心して生活することができるね」などという、一面的で極端な意見を提示する問い返しなどがこれにあたり、多面的・多角的思考を促すことができる。これらの問い返しは、生徒の視点を広げ、価値観や思考を大きく揺さぶることに効果的であると考えられる。

最後に四つ目は「価値を自覚させる問い返し」である。人間の気高さや弱さに焦点をあてる問い返しや、価値の構成要素を思考させる問い返し、思考を価値へと昇華させたり、理想と現実とのバランスを考えさせたりする問い返しであり、主題や価値へ深く至らせることができる。これらの「問い返し」を適宜、最適なものを選択しながら授業全体を通して、生徒を揺さぶっていくことによって、価値や主題を自分事として捉えさせることができ、生き方を見つめ直させながら道徳的価値の本質に迫らせることが出来ると推察される。

表9 問い返しの類別

	項目	問い返しの具体例
常時使用	【確認】	・本当にそれで良いのかな。
	【理由】	・どうしてそのように考えたのかな。
	【明確化・変換・要約】	・つまりそれってどういうことなのだろう。
	【他者との比較】	・友達の意見を聞いて、自分の意見とどこが違うと思った？ ・あなたはそれで良いと言っているけど、友達はどうのように考えるのかな
自分との関わりで考える	【自我関与】	・あなたが〇〇ならどうするかな。 ・あなたは主人公のような勇氣ある行動を本当にとることができますか。
	【見通し】	・その考え方をしていくとどうなると思う？
	【変容の自覚】	・初めの「友達」と今考えている「友達」って同じなのかな。
多面的・多角的に捉える	【視点拡張】	・主人公は本当のことを言うことができスッキリするかもしれないけれど、本当のことを言われた相手は立場がなくなるのではないかな。
	【同異点への着目】	・閉演時間を守らず、2人の子どもたちを動物園に入れる行動と、ルールを守るといふ行動、共通しているものは何だろう。
	【極論】	・きまりは安心して生活するために必要なものだね。では、たくさん校則を作れば学校生活は安心なものになりそうだね
価値の自覚	【人間理解】	・友人関係において相手を気遣うことは大切なこと。でもいつも気遣っていると負けた気にならないのかな。
	【価値の構成要素】	・礼儀の背景にあるものは何だと思う？
	【価値への昇華や価値との均衡】	・どのような心があれば継続するのかな。 ・公共の場所で個人の権利と集団の権利、どのようにバランスをとっていけばよいのかな。

<引用参考文献>

アイゼンバーグ, N. 著 二宮克美・首藤敏元・宗方比佐子訳(1995)『思いやりのあるこどもたち—向社会的行動の発達心理』北大路書房

菊池 章夫 (2018)『もっと/思いやりを科学する』川島書店

鈴木有美・木野和代 (2008)「多次元共感性尺度 (MES) の作成 自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて」『教育心理学研究』第 56 号 P. 487-497

村上達也・西村多久磨・櫻井茂男 (2016)「家族、友だち、見知らぬ人に対する向社会的行動—対象別向社会的行動尺度の作成—」『教育心理学研究』第 64 号 P. 156-169

望月 文明 (2005)「道徳推論と向社会的行動との関係及びその媒介要因について」『モラロジー研究 No. 55』モラロジー研究所 P. 17-48